

第63期に関するご報告

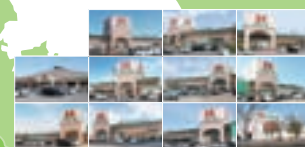
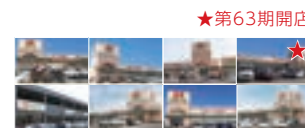
2020年3月1日～2021年2月28日

High Quality & Low Price



SUPER REPORT

長期ビジョン「瀬戸内商勢圏180店舗3000億円構想」
中期経営計画「2020年100店舗1500億円計画」最終年度



Contents

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| ●事業のご報告.....1 | ●第63期トピックス 店舗開発.....7 |
| ●新型コロナウイルス対策とビジネスモデル.....3 | ●第63期トピックス ESGへの取り組み.....8 |
| ●長期ビジョンと中期経営計画.....5 | ●財務諸表.....9 |



証券コード:2742

事業のご報告

株主の皆様には、平素から格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに当社「第63期に関するご報告」をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2021年5月

代表取締役社長 **佐藤 利行**



当事業年度におけるわが国経済は、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大による世界経済の悪化、国内の感染症拡大防止策による経済活動、社会活動の抑制等により、先行きに不透明感を残す状況で推移しました。

小売業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛による生活者の購買行動の変化から、業種別の格差が業績に現れました。また、企業収益の減少に伴う雇用・所得環境の悪化を背景に、日常の買物での生活防衛意識はさらに強まり、低価格志向が続きました。

社 訓

和して向上 日々感謝

経営理念

- 一、地域社会の生活文化向上に貢献する
- 一、従業員の幸せづくり人づくりをする
- 一、お取引先様との共存共栄をはかる
- 一、成長発展のため利益を確保する

このような状況の中で当社は、以下の主要な取り組みを行いました。

- ①販売促進面 生活防衛企画及び自社会員カード（ハロカ）のポイント優遇施策
- ②商品面 重点販売商品の育成、産地開発商品の増加及びプライベートブランド商品のシェアアップ
- ③店舗開発面 5店舗の新規出店
- ④店舗運営面 3店舗の大改装、11店舗へセルフレジの導入及び新型コロナウイルス感染症防止対策
- ⑤社会貢献面 フードバンク事業運営団体への商品提供及び自社エコセンターによる資源の再利用
- ⑥経営面 新中期経営計画「2125計画」を発表
- ⑦資本政策面 新株式発行（一般募集及び第三者割当）と併せて、当社株主を売出人とする株式の売出し



以上の結果、当事業年度の営業収益は1,519億43百万円(前年同期比12.8%増)、営業利益は76億4百万円(前年同期比43.7%増)、経常利益は75億82百万円(前年同期比42.7%増)、当期純利益は54億98百万円(前年同期比55.1%増)となりました。

なお、配当金につきましては、中間配当2円増配、期末配当2円増配、営業収益1,500億円達成記念配当2円増配で年間合計6円の増配となりました。

次期の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症による影響は引き続き継続するなか、実質賃金の低下等により、消費マインドの冷え込み懸念など、生活防衛意識による慎重な購買行動及び低価格志向が続くものと見込まれます。加えて、人口の減少、年齢構成及びライフスタイルの変化などが続き、これらへの対応及びオーバーストアなどの競争環境激化への対応が迫られております。

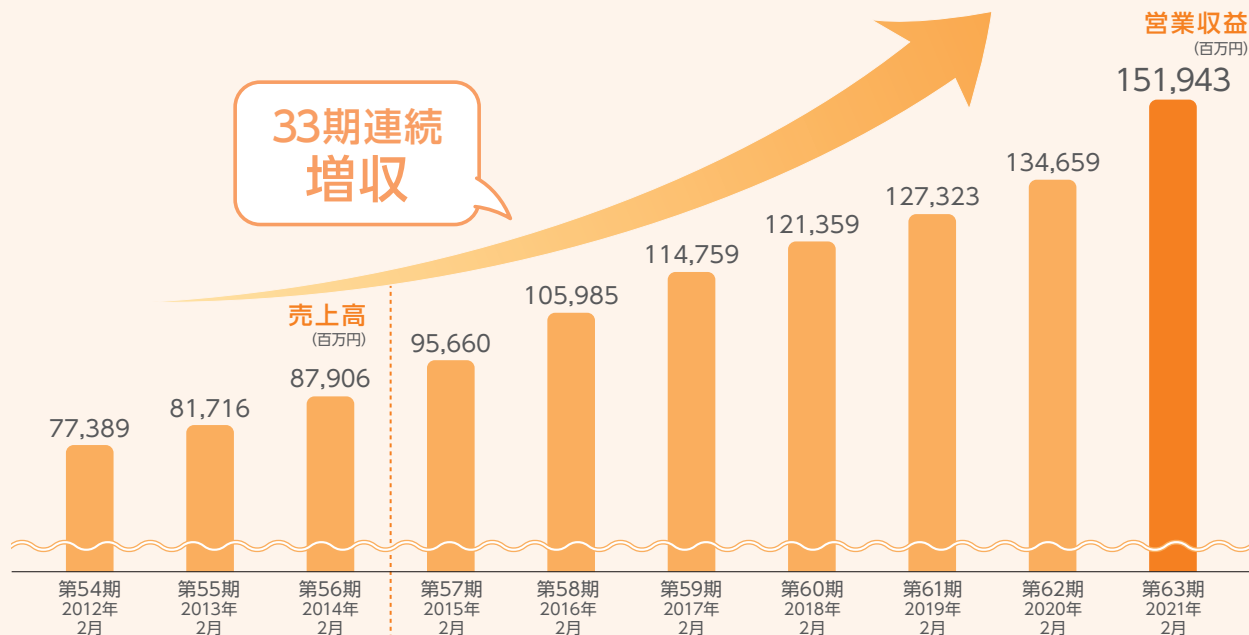
○配当金の推移

(単位：円)



このような環境の中、変化・競争へ柔軟に対応しつつ、新規出店及び既存店の改装を積極的に行い、お客様満足度の高い店舗により商勢圏内での優位性確立を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



(注) 第57期より、不動産賃貸収入等の「営業収入」を含め「営業収益」として表示する方法に変更いたしました。

新型コロナウイルス対策とビジネスモデル

第63期は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年4月には全国に緊急事態宣言が発令されるなど、外部環境にかつてないほどの変化が起きた年となりました。

その中で当社は、地域の皆様の生活を支えるライフラインとして営業を続けてまいりました。

お客様と従業員の安全確保を最優先に考え、感染症予防対策として、全店で以下の取り組みを行いました。

1 従業員の健康チェックの実施

全従業員に対して、就業前の健康チェックで発熱や風邪の症状の有無の確認を義務付け、37.5℃以上の発熱がある場合は出勤を控えるように指示しております。

2 従業員の手洗い及びアルコール消毒の実施

全従業員に対して、定期的な手洗い及びアルコール消毒を義務付け、実施しております。また、業務外でも消毒ができるように個人別にアルコール消毒液及びボトルの支給を行っております。

3 従業員のマスクの着用

全従業員に対して、マスクを支給し着用を義務付けております。

4 アルコール消毒液の設置

お客様が手指を消毒できるよう、店舗入口にアルコール消毒液を設置しております。また、関係者通用口にもアルコール消毒液を設置し、関係者へ手指の消毒を義務付けております。

5 買物かご、買物カートの衛生管理

お客様が使用される買物かご、買物カートの持ち手部分を定期的にアルコール消毒しております。

6 惣菜・ベーカリー商品のバラ売り販売を個包装販売へ変更

洗浄や加熱をせず、直接食する惣菜やベーカリー商品のバラ売り販売を中止し、個包装販売に変更しております。

7 試食販売の中止

ウイルスの飛沫防止のため、試食販売を中止しております。

8 レジ及びサービスカウンターへのシールド設置

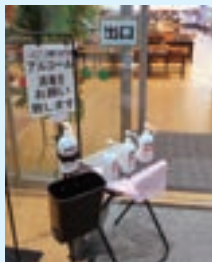
お客様と従業員間での飛沫感染防止のため、レジ及びサービスカウンターへ遮蔽シールド(またはシート)を設置しております。

9 レジ待ち間隔確保の目安となる足型サインの表示

レジ待ち時のお客様同士の間隔を確保するため床面への足型サインを表示しております。

10 トイレのジェットタオル稼働停止

ウイルスの飛沫防止のため、トイレに設置したジェットタオルの稼働を停止しております。



店舗掲示ポスター

当社では、コロナ禍の中にあっても現在のビジネスモデルを継続したことで、お客様からのご支持をいただくことができたと考えております。お客様の利便性向上のためのビジネスモデルが、結果として新型コロナウイルス感染症拡大防止にも資するものでありました。



ビジネスモデルの概要



ビジネス
モデル 1

24時間オペレーション

いつでも買物ができる24時間営業

自分の生活スタイルに合わせて、混雑していない時間を選んで買物
をすることができるため、密集を緩和できます。

様々なお客様のニーズに24時間応えるため

昼

- ・商品加工
- ・レジ業務
- ・接客対応

24h

- ・商品陳列
- ・店内清掃
- ・防犯体制

夜

24時間営業：作業の平準化による効率的なオペレーション

[24時間バックアップ]
店舗に合わせた物流体制

[24時間フォローアップ]
本部・センター情報提供

24時間サポート

店舗オペレーションを中心としたビジネスモデル

ビジネス
モデル 2

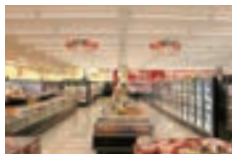
600坪型店舗のNSC

600坪型標準店舗

高い天井、広い通路で3密になりにくい
店内空間で買物ができます。

NSC(近隣購買型ショッピングセンター)

購買頻度の高い商品を扱う店舗を誘致
してNSCを形成することで、ショートタイムショッピングができます。



ビジネス
モデル 3

High Quality & Low Price Stores(HALOWS)

より良い品をより安く

自社物流及び本部機能を中心に、調達～販売までをコントロール
することで、品質・品揃えの向上、商品原価の低減を進めてまい
ります。

ハローズセレクション

当社プライベート・ブランド(PB)商品「ハローズセレクション」は
安全・安心・健康がコンセプトです。

国内外を問わず世界のベストソースから調達・開発を行い、適切
な品質とお値打ち価格でお客様にお届けしてまいります。



PB総品目数

874品目

売上高構成比

11.0%

2021年2月28日

特集～長期ビジョンと中期経営計画

長期ビジョン▶瀬戸内商勢圏180店舗3000

新中期経営計画「2125計画」

瀬戸内沿岸部に設定した商勢圏内(中国・四国・近畿の6県下)に、180店の店舗展開を行い営業収益3000億円を目指しております。第63期を最終年度とした「2020年100店舗1500億円計画」は、営業収益で1500億円を達成することができました。次の5カ年の中期経営計画として「2125計画」を推進してまいります。「2125計画」とは、2025年度までに、120店舗体制で、営業収益2000億円を達成させる計画であります。

第64期は「2125計画」スタートの年であり、6店舗の新規出店及び3店舗の大改装を計画しています。また、「2125計画」達成に向けて、「食をプロデュースするハローズへ進化」というテーマを掲げ、下図の3つの進化へ取り組んでまいります。

食をプロデュースするハローズへ進化





億円構想

2125計画とは？

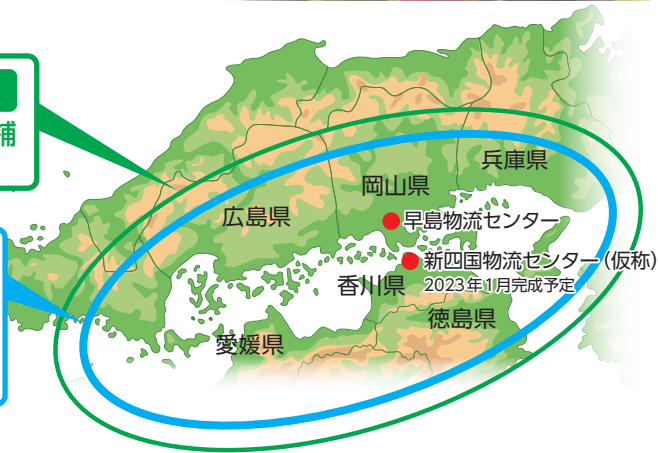
2025年度迄に

120店舗体制で

2000億円を達成！

長期ビジョン
瀬戸内商勢圏180店舗
3000億円 構想

新中期経営計画
2125計画
2025年120店舗
営業収益 2000億円

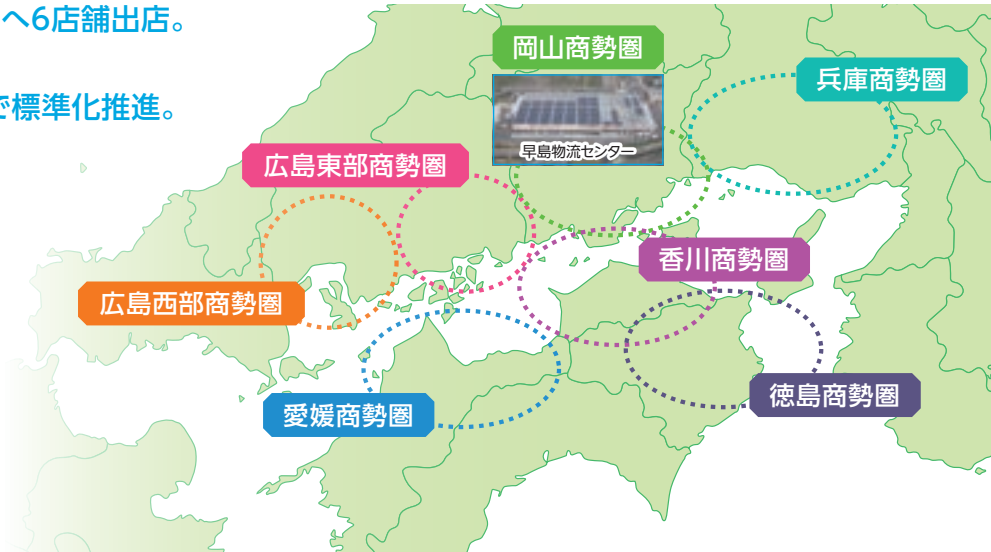


2022年2月期(第64期) 店舗開発計画

- 第64期は既存商勢圏内へ6店舗出店。
ドミナント強化。
- 既存店3店舗の大改装で標準化推進。

第64期新店

- 草津新町店(広島県)
- 熊野店(広島県)
- 宮内店(広島県)
- 玉島店(岡山県)
- ほか2店舗(うち1店舗は兵庫県)



第63期には、公募増資により、約46億円の資金調達を行いました。手取金については、全額を第64期の新規出店の設備投資に充当する予定であります。

また、長期ビジョン実現のため、四国商勢圏の中心である香川県坂出市番の洲町に用地を取得いたしました。
2023年の稼働に向け物流センター構築を進め、早島物流センターと合わせて、中国四国近畿6県の店舗への物流体制を確立してまいります。

第63期の新店出店と改装状況

第63期は香川県1店舗、愛媛県1店舗、徳島県1店舗、兵庫県2店舗の新規出店を行いました。

既存商勢圏のドミナント化を中心に600坪型24時間営業の5店舗の新規出店により、店舗数は広島県28店舗、岡山県25店舗、香川県12店舗、愛媛県8店舗、徳島県9店舗及び兵庫県9店舗の合計91店舗となりました。

また、既存店3店舗を、「地域密着及び簡便性商品等の充実を目的とした品揃え・レイアウト変更」と「省エネ対応をふまえた店内設備の改修工事」等の改装を行いました。

新規開店店舗

ハローズ大林店

おおばやしてん

徳島県小松島市(87番目店舗)



2020年
4月24日
開店

ハローズ三木店

みきてん

香川県木田郡三木町(88番目店舗)



2020年
7月11日
開店

ハローズ西条店

さいじょうてん

愛媛県西条市(89番目店舗)



2020年
10月8日
開店

ハローズ東加古川店

ひがしかこがてん

兵庫県加古川市(90番目店舗)



2020年
10月31日
開店

ハローズ姫路飾磨店

ひめじしかまてん

兵庫県姫路市(91番目店舗)



2021年
2月19日
開店

改装店舗

ハローズ御幸店(広島県福山市)



2020年12月10日リニューアルオープン(増床)

ハローズ伊勢丘店(広島県福山市)



2021年1月21日リニューアルオープン

ハローズ新涯店(広島県福山市)



2021年1月30日リニューアルオープン(増床)

食品ロス問題への取り組み

日本の食品ロス量は、年間612万トン（事業系328万トン、家庭系284万トン）あり、食品ロス削減には、事業者、家庭双方の取り組みが必要と言われています。

その中でハローズは、食品ロス削減への取り組みを推進しております。

以前より、フードバンクを通じて子ども食堂等の支援団体へ食品を提供しておりましたが、ハローズの各店舗から物流センターを経由してフードバンクへ渡し、その後支援団体へ届けるため、時間的な制約により提供できる商品の種類と数量が限られておりました。

そこで、各支援団体の方に近隣のハローズ店舗へ直接引取りに来ていただくという「ハローズモデル」を開発しました。

これにより、今までは提供できなかった消費期限間近の商品や、生鮮食品、要冷商品なども提供可能となり、提供量が飛躍的に拡大しました。

また、各店舗から物流センターへ集荷するハローズの負担と、ハローズの物流センターからまとめて引き取った食品を支援団体へ振り分けて届けるフードバンクの負担も軽減でき、持続可能な食品ロス削減の取り組みとして、同業各社及びメーカーへも「ハローズモデル」が拡大しております。

このような活動が評価され、「食品ロス削減推進大賞内閣府特命担当大臣賞」を受賞することができました。

引き続き、食品ロスの削減と、「ハローズモデル」の普及に取り組んでまいります。

食品ロス削減推進大賞内閣府特命担当大臣賞受賞

以前の食品受渡のフロー



ハローズ モデル



持続可能な食品ロス削減への取り組み

- ①それぞれの負担を軽減
- ②商品受渡時間の短縮により提供できる商品種類の増加（野菜、要冷商品等）

- ①②より支援団体への食品提供量の拡大（自社廃棄率は減）

自社年間提供量：2015年5t→2021年120t

2016年 ハローズモデル誕生
2019年1月「第6回食品産業もったいない大賞」
2020年12月「食品ロス削減推進大賞内閣府特命担当大臣賞」



財務諸表

貸借対照表

(単位:百万円)

	第63期 2021年2月28日現在	第62期 2020年2月29日現在
資産の部		
流動資産	27,866	19,042
現金及び預金	21,568	13,349
その他	6,302	5,696
貸倒引当金	△ 3	△ 2
固定資産	62,978	58,023
有形固定資産	51,795	47,773
無形固定資産	389	365
投資その他の資産	10,794	9,885
資産合計	90,845	77,066
負債の部		
流動負債	27,779	24,772
買掛金	14,868	13,726
一年内返済予定の長期借入金	3,622	3,311
リース債務	612	643
未払金	2,077	1,595
未払費用	1,403	1,234
未払法人税等	1,663	1,127
その他	3,532	3,133
固定負債	18,849	17,639
長期借入金	11,718	10,678
リース債務	935	1,191
退職給付引当金	704	655
資産除去債務	1,408	1,327
預り建設協力金	953	1,021
長期預り敷金保証金	1,872	1,782
長期前受収益	928	649
その他	328	333
負債合計	46,628	42,412
純資産の部		
株主資本	44,086	34,544
資本金	5,430	3,114
資本剰余金	5,374	3,058
利益剰余金	33,415	28,510
自己株式	△ 133	△ 137
評価・換算差額等	0	0
その他有価証券評価差額金	0	0
新株予約権	129	108
純資産合計	44,217	34,653
負債・純資産合計	90,845	77,066

(注) 各諸表の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

	第63期 2020年3月 1 日から 2021年2月28日まで	第62期 2019年3月 1 日から 2020年2月29日まで
売上高	148,257	131,217
売上原価	110,587	98,190
売上総利益	37,670	33,027
営業収入	3,685	3,442
営業総利益	41,355	36,469
販売費及び一般管理費	33,751	31,179
営業利益	7,604	5,290
営業外収益	134	162
営業外費用	155	140
経常利益	7,582	5,312
特別利益	169	86
特別損失	63	142
税引前当期純利益	7,689	5,256
法人税等	2,190	1,711
当期純利益	5,498	3,544

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	第63期 2020年3月 1 日から 2021年2月28日まで	第62期 2019年3月 1 日から 2020年2月29日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	11,589	15,133
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 7,560	△ 8,133
財務活動による キャッシュ・フロー	4,684	1,039
現金及び現金同等物 に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物 の増減額(△減少額)	8,713	8,039
現金及び現金同等物 の期首残高	14,535	6,496
現金及び現金同等物 の期末残高	23,249	14,535



株主資本等変動計算書

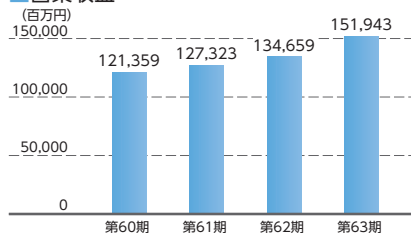
当事業年度(2020年3月1日から2021年2月28日まで)

(単位:百万円)

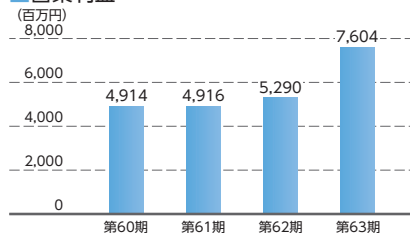
	株 主 資 本										評価・換算差額等		新 株 予 約 権	純 資 産 合 計	
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	利益剰余金			自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価証券 評価 差額金	評価・ 換算 差額等 合計			
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		その他利益剰余金 圧縮 積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金							利益 剰余金 合計
当期首残高	3,114	3,057	1	3,058	16	141	20,422	7,930	28,510	△137	34,544	0	0	108	34,653
当期変動額															
新株の発行	2,316	2,316		2,316							4,632				4,632
剰余金の配当								△593	△593		△593				△593
当期純利益								5,498	5,498		5,498				5,498
圧縮積立金の積立						80		△80	—		—				—
圧縮積立金の取崩						△6		6	—		—				—
別途積立金の積立							2,300	△2,300	—		—				—
自己株式の取得										△0	△0				△0
自己株式の処分			△0	△0						5	4				4
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)												0	0	20	21
当期変動額合計	2,316	2,316	△0	2,315	—	74	2,300	2,530	4,904	4	9,541	0	0	20	9,563
当期末残高	5,430	5,373	0	5,374	16	215	22,722	10,461	33,415	△133	44,086	0	0	129	44,217

ハローズの業績推移

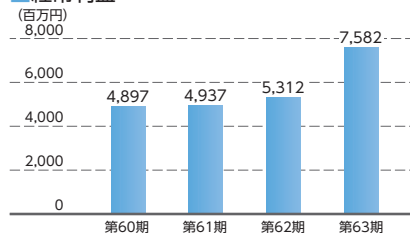
営業収益※



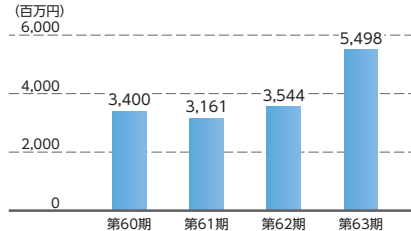
営業利益



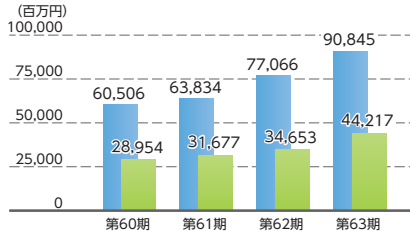
経常利益



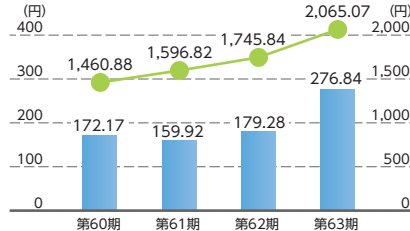
当期純利益



総資産／純資産



1株当たり当期純利益／1株当たり純資産



※売上高に営業収入を加算し、営業収益としております。

会社情報



■ 会社概要 (2021年2月28日現在)

会社設立 1958年10月14日
会社名 株式会社ハローズ
資本金 54億3,063万円
本社 広島県福山市南蔵王町六丁目26番7号
(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は下記で行っております。)
本部 岡山県都窪郡早島町早島3270番地1
電話番号:086-483-1011 (代表)
従業員数 1,178名
事業内容 食品スーパーマーケット業(食料品、日用雑貨品等の販売)
店舗数 91店舗
(広島県28店舗、岡山県25店舗、香川県12店舗、
愛媛県8店舗、徳島県9店舗、兵庫県9店舗)

■ 株主メモ

事業年度 毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会 毎年5月
剰余金の配当基準日 中間 毎年8月末日
期末 毎年2月末日

株主名簿管理人・
特別口座の
口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)

- 株主様の住所変更等の各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行(口座管理機関)の上記電話及びインターネットでも24時間承っております。
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部
単元株式数 100株
公告掲載方法 電子公告
公告掲載URL <https://www.halows.com/>

- やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、日本経済新聞に公告いたします。

■ 役員 (2021年5月27日現在)

代表取締役社長	佐藤利行
取締役副社長	佐藤太志
専務取締役	小島宏教
専務取締役	花岡秀典
専務取締役	高橋正名
常務取締役	末光憲司
取締役	小塩登美子
取締役	砂田健二
取締役(社外)	藤井義則
取締役(社外)	池田千明
常勤監査等委員	小田俊二
常勤監査等委員(社外)	尾崎和正
監査等委員(社外)	岡本均
監査等委員(社外)	稲福康邦
監査等委員(社外)	小林正和

株主優待制度のご案内

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けております。また、株主の皆様への感謝を込めて、株主優待制度を設けております。

所有株式数	株主ご優待券
100株以上	1,000円相当(500円優待券2枚)
500株以上	5,000円相当(500円優待券10枚)
1,000株以上	10,000円相当(500円優待券20枚)

利用方法

- ・当社の店舗にて、1,000円以上のお買物につき、1,000円ごとに1枚利用できます。
- ・有効期限 発行された翌年の5月末日まで

進呈時期

- 毎年2月末日現在の株主名簿に記載又は記録されている100株以上ご所有の株主様に対し、年1回5月末頃発送の予定をしております。
- なお、当社店舗所在の市町村及び隣接する市町村以外に在住の株主様につきましては、上記基準による株主ご優待券にかえて「QUOカード」を進呈いたします。



High Quality & Low Price



ハローズ ホームページのご案内 <https://www.halows.com/>
ハローズ財団 ホームページのご案内 <http://www.halowszaidan.or.jp/>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。 環境にやさしい植物油インキにて印刷しています。